

内外価格差について

内外価格差及び購買力平価については中長期的には改善方向(国内の物価下落により格差を縮小する方向)で推移しています。

しかし、2000年では、購買力平価は引き続き改善したものの、為替レートが円高に推移したため、内外価格差は拡大しました(図1)。

内外価格差の是正

日本では、世界的競争にさらされている工業製品の価格が安価である一方、サービス価格や流通コスト等が相対的に高いため、生計費が割高となっています。こうした内外価格差の是正は、90年代前半まではあまり進みませんでした。その後は価格差が是正される方向へ徐々に向かっています(図1)。

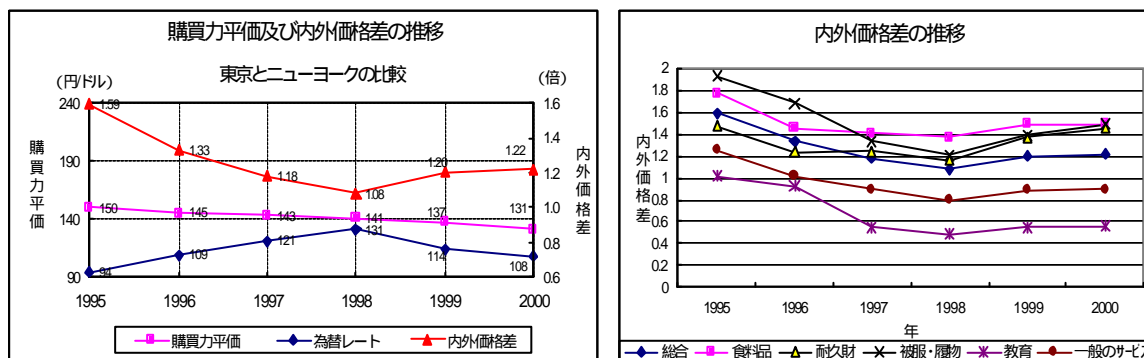
このような内外価格差が縮小している要因としては次のような理由が考えられています。

アジア諸国の工業化を背景に安値品の輸入が増加した。

国内の規制緩和が、競争を通じて価格引き下げ圧力をもたらす方向に作用した。

衣料品を中心に生産から販売まで一貫して行うような流通新業態の進出に象徴される流通合理化の動きが活発化した。

図1(参考)



資料出所：内閣府国民生活局ホームページより

内外価格差とは

- 内外価格差：内外価格差 = 購買力平価 / 為替レート (円 / ドル)

購買力平価	： 国内物価上昇	内外価格差は拡大
	国内物価下落	内外価格差は縮小
為替レート	： 円高	内外価格差は拡大
	円安	内外価格差は縮小

購買力平価とは

- 購買力平価：1ドルあたりの商品購入能力
 (例) A商品の国内価格が100円、米国での価格が1ドルの場合
 A商品の購買力平価は、100円 / 1ドル
 為替レートが100円 = 1ドルであれば内外価格差なし